

**平成25年度 第5回 生駒市環境審議会
エネルギービジョン策定部会 会議録**

1 開催日時 平成26年2月6日(木) 午後2時～午後3時

2 開催場所 生駒市役所 4階大会議室

3 審議事項

(1) 生駒市エネルギービジョン(案)について

(2) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

部会長 島田幸司

副部会長 遊津隆義

委員 楠下孝雄 田中武

囑託員 豊田陽介

事務局 奥谷長嗣 環境経済部長 堀孝弘 環境経済部次長

岡田敏幸 環境政策課長 川島健司 環境政策課長

阿部健一 環境政策課企画係長

5 傍聴者 5名

午後2時 開会

6 審議内容

(1) 開会

(2) 審議事項

以下、発言要旨。

部会長 案件1「生駒市エネルギービジョン(案)について」について審議を宣告。

事務局に説明を求める発言あり。

事務局 事務局から、資料「エネルギービジョン(案)」に基づき、パブリックコメント後の変更点を中心に説明。

部会長 委員からの質問、意見を求める発言。

パブリックコメントについて、大きいところではエネルギー技術に関して全体のバランス感、ある特定の技術に焦点が当たっているのではないかというご意見があったが、そこへの対応として本編の11ページを修正しているのかとの質問。

事務局 コージェネレーションについては20ページにも修正を入れているとの発言。

委員 コージェネレーションは効果の出ない使い方がある。24時間稼働させ、熱を有効に使えば総合効率で80%を超える。そのあたりが理解されているのかとの発言。

副部長

エコウィルもそうだが、人数が多くてエネルギーを使いながら風呂に入る、こういった場合にコージェネを入れれば効率が良い。そのあたりを説明してあげなくてはならないとの発言。

部長

エネルギーセキュリティーについて、防災関連施設へ再生可能エネルギー機器やコージェネレーション機器を導入することは先進的な施策であり、低炭素対策にもなるし防災にもなる。この点はどうか。市役所関連施設で防災機能としてコージェネレーションを入れていくというのは予算面も含め大丈夫かとの発言。

事務局

コージェネレーションについてはあくまで有効性を見て入れていく。太陽光は順次予算の範囲で進めていきたい。28ページの(3)①1)と2)にも記載しているが、再生可能エネルギーとコージェネは建物によってどちらかを選択するイメージであるとの発言。

部長

コージェネレーションの導入を防災としてやっているところはあるのかとの質問。

委員

病院やホテルといったところで結構多い。連続で動かしながら防災にも役立つとの発言。

部長

公共の建物には設置を進めていき、民間は強制できないので導入を支援するということになるとの発言。

委員

パブリックコメントの資料であるが、FITとは何かとの質問。

部長

固定価格買取制度の略である。同じく、パブリックコメントの資料中「現行施設の稼働状況を踏まえ」とは何を意味しているのかとの質問。

事務局

廃棄物発電については現行施設である清掃センターに発電機を設置しなければならないが、国定公園なので高さに制限がある。棟の上に発電機を載せる場合、加重が100トンを超えることから架台から整備しなければならない。そのため、向こう5年の具体的な課題ではないとの発言。

部長

過重負荷に耐えられないのか、との発言。

事務局

土台からやりなおさないといけないとの発言。

委員

ごみ半減を目標としているが、長期的にはいずれごみ処理施設も更新する。そのときには発電機も考えられるのではとの発言。

事務局

総合的に検討し、5年間の中では検討しづらいことから検討していない。将来的には必要だろうという認識との発言。

嘱託員

何を原料にしたバイオマス利用なのか。木質バイオマスガスを利用した発電なのか。ここで聞いておられることをもう少し具体化する必要があると感じたとの発言。

部長

バイオマスの活用についてはエネルギービジョン本編の26ページ、②バイオマスの1)に書いてあるので、アピールしていただければとの発言。

委員

パブリックコメントの件数が少ない。市の広報が1ヶ月2回発行されており、市の行事が掲載されていることから私は必ず目を通して。パブリックコメントについて広報に掲載はしたのかとの質問。

事務局

パブリックコメントの件数はだいたい1件から5件ほどで、他のパブリックコメントも多くはない。広報は通常月2回発行だが、1月は15日の合併号しかなく、1日号がないため期限が合わず掲載できなかった。ホー

ムページと全ての公共施設に掲示するという一定の手続きを行っているとの発言。

部会長

パブリックコメントへの回答で、国の、資源エネルギー庁という表現が目立つ。国が言っているから、というよりは実質的な、コージェネレーションだと冷温熱と電気のバランスがあれば有効であるというふうに書いたほうがとの発言。

事務局

技術的な根拠を我々が示すのは難しい。質問からすると、特定の民間企業に肩入れしているのではないかと思われている。公平な立場で見ているのは国または資源エネルギー庁となるのではないか。公平的に見ているというところを訴えたかったとの発言。

部会長

国といえどもその当時の政権の影響を色濃く受ける。書きぶりも大きく変化するので、間違っているわけではないが、公平かどうかは吟味しながら対応する必要はある。

事務局

我々が入手できる技術的な評価として書き込むことで、資源エネルギー庁や環境戦略といった表現はなくす方向で進めたいとの発言。

部会長

設計、設置の時点で十分調査せずに導入されたコジェネの事例もある。使い方以前の問題で、熱需要と電気のバランスがとれていないケースもある。一定の熱と電気のバランスの中で導入する必要がある。そういう趣旨を踏まえて20ページを変更します、としたほうがよいとの発言。

囑託員

同じような形で、コージェネレーションを全ての施設に導入していくわけではなく、あくまで調査をしたうえで、ふさわしいところに入れる。ビジョンの中でも調査の時期は入れているので、そうやって進めていくというのを示してはどうかとの発言。

副部会長

審議会以降に変更のあった点はとの質問。

事務局

22ページから始まるスケジュールにめりはりがないという指摘があり、この部分を中心に変更したとの発言。

囑託員

25ページの4)に市民ファンドの情報については既存事業に入れないのかとの質問。

事務局

市民ファンドにつきましてはメンバーの方にご努力していただいているが、市の事業ではないので市民の活動として追記させていただくとの発言。

副部会長

太陽光は30%を目指しているなのでそのへんの情報を入れておいたほうがよいとの発言。

委員

推進体制のところで、役割分担とか、どういうところで情報を得るか多少具体的に示したほうがよいが、今後の検討課題ということでの発言。

副部会長

このあたりの推進体制について審議会で質問されていたが、あまり変わっていない気がする。分担のところで行政サイドがやるのか、事業者サイドがやるのか、市民がやるのか分けて書くというのもあったとの発言。

委員

環境審議会で、予算の裏づけについて話があったとの発言。

事務局

予算の付いた施策がビジョンに載っているのではなく、あくまでビジョンをもとに予算化をしていきたいというものだと考えているとの発言。

委員

ビジョンは方向をうちだしたもの。中期計画、実行計画と続いていくと

の発言。

部会長

若干変更はあるが、これで確定したいとの発言。
事務局に今後の予定を求める発言。

**事務局
部会長**

事務局から、市民周知までの今後の日程を説明。
策定部会に対する協力への感謝の発言。
策定部会の審議を終了する発言。
策定部会の閉会を宣告。

午後 3 時 閉会